

令和 4 年 6 月 28 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00205

研究課題名(和文)映画における制作・保存・配給のインフラプラットフォームの構築

研究課題名(英文) Building an online infrastructure of production, archiving, and distribution for film

研究代表者

榎井 省志(MASUI, SHOJI)

東京藝術大学・大学院映像研究科・教授

研究者番号：70720887

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻で制作しアーカイブしている短編・長編映画の検索項目の最適化と、映像配信のためのインフラプラットフォームの構築の検討を行なった。アーカイブ化された作品の一部はインターネット配信プラットフォームのプロトタイプとして無料でインターネット上に公開をする。映像作品の無料配信のため各作品の著作権者への承諾、作品のアーカイブ化のプロセスなどを専門家とともに検討し映像制作における著作権者への確認事項と承諾までのワークフローを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東京藝術大学で制作された作品を、本学の教育研究の成果と捉え、社会に発信し届けること自体に社会的・教育的な意義がある。今回の研究により配給(配信)までを映画制作の一つの工程として捉え、企画の段階から配信・アーカイブ化も視野に入れた包括的な映像教育を考察できた学術的な意義も大きい。ただし、映画の視聴状況についての議論もある。映画館での上映を目的として制作した作品を、インターネットという異なる環境状況で公開することの教育的意義の問いである。本研究では、この問題についての答えを提示することはできないが、この新しい議論が持ち上がったことから本研究の意義が明確であった。

研究成果の概要(英文)：We have built an online infrastructure of production, archiving, and distribution for films that Tokyo University of the Arts produced, considering the item retrieval method.

We opened some of the archived films to the public online for free as a prototype of our platform built. To distribute the films online for free, we had to collect approvals from the right holders of the films and consider the reasonable and efficient method for archiving the films' data and information. We constructed the entire process from production to online distribution, reviewing with Professionals at each stage.

研究分野：映画

キーワード：映画アーカイブ 映像配信

1. 研究開始当初の背景

Netflix、Huluなどの映画・映像のインターネット配信は、研究開始当初すでに映画・映像を視聴する重要なプラットフォームとなっていた。それは、“映画は映画館で見る”という既成概念の変化が始まっていることを意味する。また、映像制作という点でも、配信会社が自社コンテンツとして日本での映画・映像制作を始める時期でもあった。すでに映画業界では、デジタル制作が主流になり10年近くが経過し、映像素材のアーカイブ化についての問題が映画制作・教育機関などで意識され始めた時期でもあった。これは、4Kなどの大量データを高速に処理するなどの、デジタルシネマ制作に必要な技術課題が解決、もしくは解決の見通しができた時期でもある。映画の制作アーカイブの意義と可能性、そして映画制作としての映像配信のプラットフォームを教育的観点から検証した研究は少ない。そこで、本研究では、これらの課題を実際の映像制作の配信プラットフォームの構築と管理運営の方法を研究する。

2. 研究の目的

本研究では、総合的な映画のデジタルインフラプラットフォームの開発と構築、そしてその運用を目的とする。制作作品のオリジナルクオリティーと配信品質の問題、映像制作に関わる著作権の問題、制作に関連する情報のアーカイブといった映画制作とアーカイブそして、配給（配信）という3つの要素を反映したインフラプラットフォームを開発し、今後の映画制作の管理・運営方法を考察する。

3. 研究の方法

本研究の研究方法は、下記の4項目についての考察をもとに、開発したインフラプラットフォームにてアーカイブ作品の配信を行なった。

- (1) 東京藝術大学大学院映像研究科にフィルム、テープに保管されている作品をデジタルに変換した際の品質に関して、ポストプロダクションの観点からの比較と検討を映像のプロフェッショナルとともに行う。
- (2) 作品をデジタル化しアーカイブする際に、作品だけでなく映画が制作される工程を再度見直し、映像教育の情報を精査し作品に関連づけデジタル資料としてアーカイブ化し、インフラプラットフォームで運用することでどのような映像教育的な効果が生じるのか、映画の知的資料としての価値を検討する。
- (3) インターネットでの配信を行うための様々な著作権の問題を専門家とともに検討しながら、映像研究科が保有する作品の著作権をクリアにする工程を記録することで、映画を配信する為の権利関係の問題点をより明確にする。
- (4) 映画制作、アーカイブ、配給（配信）を統合した映画のインフラプラットフォームを映像研究科が権利を有するサーバーに構築し管理・運用を行う。

4. 研究成果

最終的な研究成果として、東京藝術大学で保管する実習作品を開発したインフラプラットフォームにてオンラインで公開・配信を行なった。

今後の効率的な運用のために、運用をしながらどのような管理機能が必要であるかを精査し明らかにすることで、独自の管理・運用ソフトの制作を今後の研究課題とする。

- (1) アーカイブ作業のためのデジタル変換の品質について
フィルムなどのアナログメディア作品におけるデジタルデータへの変換作業については、汎用性が高く、将来的に長く使われるコーデックを選択する必要があるため Apple ProResHQ 以上、コンテナはコーデック同様に汎用性と将来性から QuickTime、解像度は今後のアーカイブの最低水準と考えられる 1920x1080 以上と基準を策定した。

(2) デジタル資料の映像教育的効果・映画の資料的価値

脚本（初稿から完成台本まで）、絵コンテ、カメラレンズの詳細、美術デザイン画、ロケーションの詳細情報、撮影素材、編集過程データ、MAの作業データなどから、映画制作の各領域ごとの担当者の創造の過程（選択の変遷）を追うことができる。これら資料のもつ教育的な価値は大変貴重であると同時に、次の制作実習に応用できるなど実用的な側面での価値もある。ただし、デジタル化作業の負担が多くなること、取り扱うアーカイブデータが莫大になること、実際に教育的な価値を高めるために作品担当者がどのような意図を持って選択を行なったかなどデータには記載されていないそれ以上の情報が必要となる場合が多いことが明確となった。潜在的な教育価値は高いことを理解しつつも、作品資料のアーカイブだけではアーカイブ作業の機材や人的負担に対しての教育的な価値を提示するのが困難である。今後は、制作工程の中でどのように制作過程の負担にならずに、アーカイブ作業や制作の付加情報を取り込むことができるのが重要な課題になる。

(3) 配信を行うための著作権処理の工程について

映像研究科が設立した当時は、まだインターネット配信が一般的ではなかったため、作品制作にあたり、劇場上映および配給についての著作権処理は行なっていたものの、配信については対応していなかった。従って、この研究を始める際に、それ以降に制作した作品については、インターネット配信も視野に入れた著作権処理を行うようにした（キャスト・外部スタッフが承諾書を提出）。また、過去作品についても遡り、主にキャストに対し、配信の権利処理を行なった。しかしながら、キャストによっては、既に所属事務所を退所し、連絡がつかない人たちもあり、今後の権利処理の課題も浮かび上がった。

(4) 本研究成果として、東京藝術大学のインフラプラットフォームにて以下の2作品を無料限定公開した。

「帰ってきた少女」(5期修了生・廣原暁監督作品)

「ゴトーさん」(4期修了生・後閑広監督作品)

プラットフォームの構築の仕様は次の通りである。

作品情報においては、国内外の映画祭出品時に求められる作品情報を最低基準とした。

タイトル(英題含む)/アスペクト比/チャンネルアサイン/分数/制作年/主要キャスト・スタッフ/シノプシス/メインビジュアル

また、作品の貸出メディアの基準としては、国内のミニシアターで一般的に使用される全てのメディアとした。

DCP / ScreeningMovie(MP4/H.264) / Blu-ray / DVD

以上の4つの観点を踏まえアーカイブ作品のインターネットプラットフォームに関する研究を行った。著作権以外にも監督などの製作者意図と上映に関する問題など、本研究を通してインターネット配信に付随する作品が内包する問題点なども明らかになった。今回の研究を通し、今後の社会的な背景も考慮しつつ、映像作品の配信、作品アーカイブに関する研究の社会的意義と研究の継続の必要性がより明確になった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長 鷹 寛 幸 (NAGASHIMA HIROYUKI) (10621790)	東京藝術大学・大学院映像研究科・教授 (12606)	
研究分担者	筒 井 武 文 (TSUTSUI TAKEFUMI) (70420297)	東京藝術大学・大学院映像研究科・教授 (12606)	
研究分担者	横 山 昌 吾 (YOKOYAMA SHOGO) (80761725)	開志専門職大学・アニメ・マンガ学部・准教授 (33116)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関